

「ザポリージャの ザポロジエ・コサック」



佐々木氏



アナトリア半島（トルコ）とバルカン半島を隔てる狭い海峡を経て地中海とエーゲ海につながる黒海は、ヨーロッパとアジアの境目にあることから、その覇権を巡って古来、幾多の紛争の歴史が刻まれない。残念ながら今も絶えることがない。

その北側に、クリミア半島に蓋をされたような内海がある。黒海に比べればはるかに小さいが、それでも東京湾の三十倍近い広さをもつ。アゾフ海という。狭いケルチ海峡で黒海とつながるこの浅海の西側、現在激しい紛争の地となっているウクライナ南部一帯は、かつて精強剽悍なコサックの地であった。

コサックの由来には不明な

点が多い。古くからスキタイ人、サルマタイ人、ハザール人やテュルク語系のクマン人、タタール人などさまざまな民族が、この広大な草原に移り住んできた。

敗戦、弾圧、逃亡、新天地の開拓……。故郷を離れた理由もまたさまざまであったろう。はじめからコサックという民族があったのではなく、この地にやってきて蟠踞した人々が総称してそう呼ばれたのである。

名称の語源には幾つもの説があるが、私にはテュルク語をベースとした「社会や群れから離れた放浪者、あるいは自由な人」という解釈が一番しっくりくる。

拠点とする地域ごとに集団名があり、ドン川流域を拠点としたドン・コサックなどとともによく知られているのが、ザポロジエ（周知のように、現在はウクライナ語でザポリージャと呼ばれる）地方を貫いて黒海に注ぐ大河ドニプロ川の中州に本営を置いたザポロジエ・コサックである。

自由と平等

ザポロジエ・コサックは十七世紀初めにドニプロ川をさかのぼり、荒廃していたキ

エフ（現キーウ）を再建した。その一方で、川を下って黒海沿岸にあるオスマン帝国の港町を襲撃し、さらにはポーランド・リトアニア大公国の傭兵として活動するなど、その剽悍さがあまねく知れ渡っていたが、十九世紀末、エカテリーナ2世のロシアに服属してからは、第二次大戦に至るまでその精強さゆえに戦争の最前線に送られ続けた。

単に戦に強いだけではなく、重要事項はすべて全員集会以決めるなど、自由と平等を旨としたことも、ザポロジ

障害年金 無料相談会

お気軽にご相談ください！

病気を患っている方、障害をお持ちの方へのご案内です

20才～
64才の方が
対象になります。

会場 ラトブ6F
いわき産業創造館6F セミナー室

日時 令和5年11月5日(日)・12月10日(日)

時間 10:00～16:30(2時間駐車場無料)

※年金手帳など、病状などがお分かりになる書類等をお持ち下さい。

うつ病などの
精神疾患

けがなどの
外傷または
後遺症

がんや脳出血
などの内臓疾患

※その他にも、様々な疾患が
給付対象となることがあります。

当センターは、無料で相談を承っております。

0246-63-3517

(平日9:00～17:00)

いわき障害年金相談センター

福島県いわき市植田町本町三丁目9番地の1
https://iwaki-shogainenkin.com

当センターでは、障害年金を受給する権利のある方を全力でサポートいたします。まずは、電話でお気軽にご相談下さい。



●イリヤ・レーピン

「オスマン帝国のスルタンへ手紙を書くザポロジエ・コサック」1880—1891年
ロシア美術館（サンクトペテルブルク）

エ・コサックの大きな魅力のひとつである。
イリヤ・レーピンは「オスマン帝国のスルタンへ手紙を書くザポロジエ・コサック」で、彼らのそうした生きざまを、実に生き生きと——やや感傷的に言えば愛情を込めて描いている。

歳までをこの地で過ごした。両親がロシア人入植者だったとはいえ、ステップの大地もそこでおおらかな自由なコサックの人々と共に過ごした日々も、彼にとつては生涯消えることのない人格の一部になつていたに違いない。

ロシアでは国民的画家として敬愛されるレーピンであるが、生まれたのはウクライナ・コサックの地ハリコフ（現ハルキウ）近郊であり、二十二

この作品は、一八七七年から七八年にかけてのロシアとオスマン帝国との戦争（歴史上は露土戦争と呼ばれる）に、支配者となつていたロシアの

命を受けて参戦したザポロジエ・コサックのエピソードに基づいて描かれた。

バカ騒ぎ生き生きと

最前線で戦うコサックの割に悍気に手を焼いたスルタン・メフメト2世が、彼らに降伏を促す手紙を寄こした。コサックたちは字の読み書きができないので書記にそれを読ませ、返書を書かせようとす

る場面である。もちろん降伏などするはずもない。集まったコサックの一人が書記に、いいか、俺の言葉をそのまま書けよ「降伏するのはそつちだろう」。

すると別の者が、いやいや

まだまだ足りない。こう付け加えろ「この臆病者の○○野郎！」。一同大笑い。こうなると最初の怒りはどこへやら、また別の者が「オタンコナスの○○野郎」……

レーピンは、このバカ騒ぎを、実に生き生きとした筆致で描いている（○○は読者諸氏、自由に想像してください）。

遠くに立ち上る煙は、まさにここが最前線であることを示す。そうした生死の境目にあつてこのほがらかさ。教養を試すような西洋の歴史画とは異なり、もつと人間的で根源的なことについて考えずにはいられないような作品である。

筆者プロフィール

佐々木 吉晴

ささき・よしはる

1956（昭和31）年宮城県生まれ。東北大学文学部哲学科美学西洋美術史専攻卒業。いわき市在住。1980年、いわき市立美術館建設準備室に勤務、学芸課長、副館長を経て2012年から2021年まで館長。現在、宇都宮美術館長、斎藤清美術館長、全国美術館会議理事・災害対策委員長

<あしたのために 確かな選択>

福島県議会議員一般選挙



明るい選挙のイメージキャラクター「めいすいくん」

投票日：11月12日（日）

投票は朝7時から
出かける前にまず投票！

※ 投票所は、午後7時（一部投票所は午後6時）に終了となります。
忘れずに投票しましょう！

<期日前投票>

投票日当日に投票所に行けない場合には期日前投票をご利用ください。

期日前投票は11月3日（金）から11月11日（土）まで。

お問い合わせ

いわき市選挙管理委員会
いわき市明るい選挙推進協議会
Tel.0246-22-7532